

経営比較分析表（平成30年度決算）

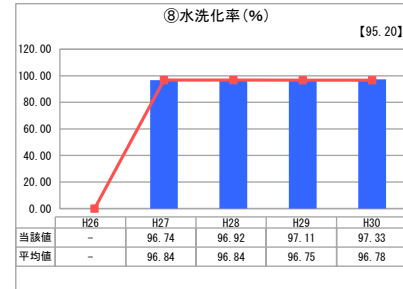
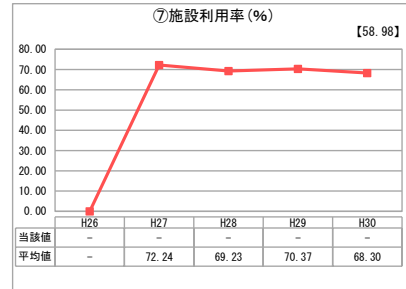
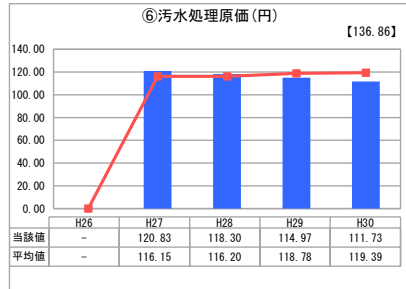
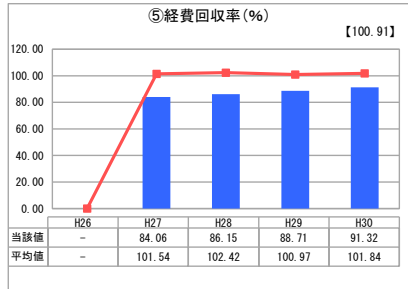
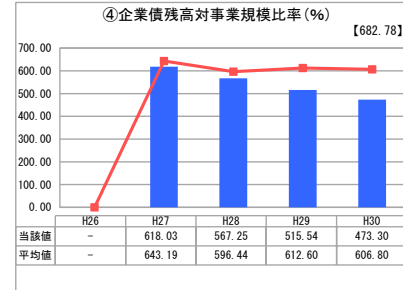
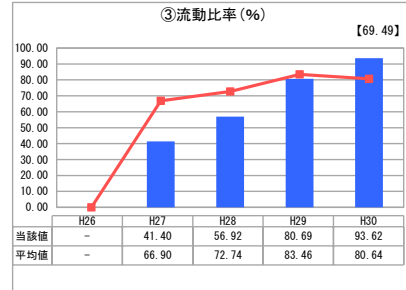
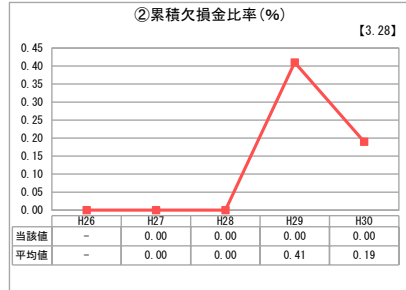
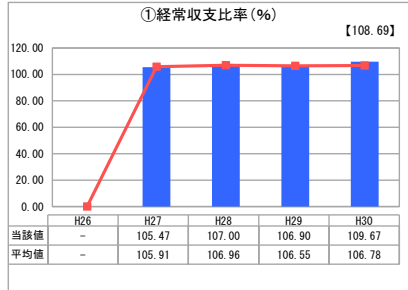
埼玉県 入間市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Ab	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	78.52	88.47	90.17	1,782

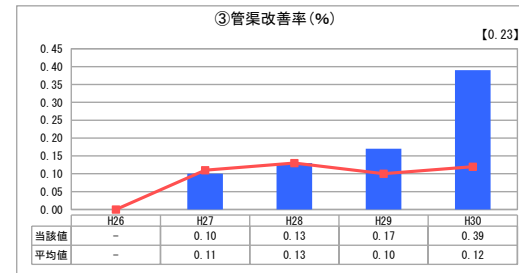
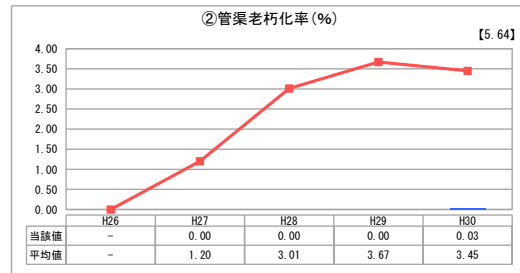
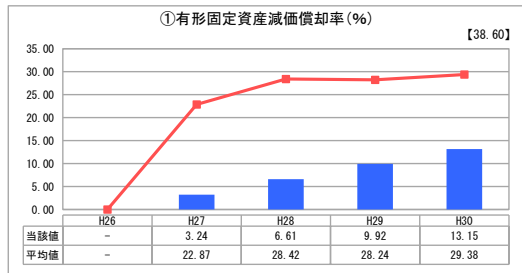
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
148,442	44.69	3,321.59
処理区域内人口 (人)	処理区域面積 (km ²)	処理区域内人口密度 (人/km ²)
131,197	15.72	8,345.87

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
[] 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
100%を超えており、財政的な健全性は高い。今後も入間市中長期経営計画（以下「経営計画」という）に基づき、適正な使用料等の確保に努める。

③流動比率
前年度に比べ上昇しているものの、依然として100%を下回っており、短期的な負債を現金等で賄いきれない状況にある。内部留保資金の確保に努め、将来的には100%以上を目指す。

④企業債残高対事業規模比率
年々減少傾向にあり、類似団体及び全国平均値を下回っていることから健全性は高い。今後も経営計画に基づき、単年度借入額を4億円以内とし、企業債残高の減少に努める。

⑤経費回収率
昨年度に比べ微増しているものの、類似団体及び全国平均値を下回っており、厳しい状況にある。今後は、使用料収入の減少、汚水処理原価の上昇が予想されることから、経営計画に基づき、使用料改定等を含めた検討が必要になる。

⑥汚水処理原価
類似団体及び全国平均値を下回っており、効率性は高い。今後、管渠等の修繕が増加傾向にあるため、汚水処理原価の上昇に留意する必要がある。

⑧水洗化率
類似団体及び全国平均値を上回っており、微増傾向で推移していることから、良好な数値といえる。今後も普及促進に努めていく。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
地方公営企業法適用に移行して間もないため、類似団体及び全国平均値を大きく下回っている。

②管渠老朽化率
昭和42年に管渠の布設を開始してから51年が経過した。埋設後40年を経過したものが約1割、埋設後30年を経過したものが約2割、残りの約7割が30年未満のものである。今後、法定耐用年数を超過する管渠が急激に増加することが予想される。

③管渠改善率
前年度に比べ上昇しており、類似団体及び全国平均値を上回っている。今後は、平成29年度に策定したストックマネジメント計画に基づき、計画的な更新投資を図っていく。

全体総括

経営の健全性・効率性については、経費回収率が他団体と比較して下回っている。下水道施設が維持管理の時代を迎え、今後、管渠等の修繕が増加する一方、使用水量の減少から使用料収入が減収となると、更なる比率の悪化が懸念される。平成29年度から10年間を計画期間として策定した「入間市下水道事業中長期経営計画」に基づき、下水道サービスの水準を低下させることなく、安定的な事業運営に努めていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。